

# 平成 23 年度（2011 年度）第 1 回運営委員会記録

豊中市教育センター

日時 平成 23 年（2011 年）6 月 21 日（火）  
会場 豊中市教育センター 研修室  
出席者 福田委員、青柳委員、寺本委員、佐渡委員、藤原委員、楢原委員、宮本委員、北尾委員、井坂委員、越桐委員、石橋委員  
欠席者 酒井委員、黒田委員、津田委員、高祖委員、猪原委員  
事務局 鈴木所長、大屋チーム長、野村チーム長、成瀬グループ長、田中グループ長（記録：寺田、井関）  
傍聴者 1 名

○委員紹介

○所長挨拶

## 1. 開会の挨拶（委員長）

- ・豊中市にとって今年度、来年度はたいへんに忙しい状態である。（人事権移譲、中学校教科書採択等）
- ・教育の質が問われる時代である。1つの教科をとっても、何を学習するかが問われている。研修においても、どんな力を教員につけ、どう子どもにかえすかが大切である。
- ・組織改革も行われ、より迅速に教育課題に対応し、適切な情報を提供できる教育センターであってほしい。教育のパートナーであってほしい。

## 2. 案件

### （1）本年度の教育センターの組織・運営について（事務局）

- ・組織の概要
- ・利用者、利用件数
- ・昨年度の提言から
  - ①研究指定校と連携した研究会・研修会の工夫
  - ②研究協力員の研究の方向性
  - ③研修権の移譲について
  - ④豊中南部地域の子どもたちも参加しやすい教育センター事業
  - ⑤インクルーシブ教育の推進
  - ⑥教育相談について
- ・豊中市教育振興計画

### （2）本年度の事業計画について（事務局）

○教育計画チーム

研究・研修グループ

- ・学校教育の研究・調査に関すること
- ・教育資料の収集・保管及び利用に関すること
- ・教科書センターに関すること
- ・教育センター運営委員会に関すること
- ・教職員の研修に関すること
- ・教育情報の発信に関すること

## 情報・科学グループ

- ・情報教育に関すること
- ・科学教育に関すること
- ・教育情報の発信に関すること
- ・市民対象の教育に関する講座に関すること
- ・センター施設の維持管理に関すること

## ○教育相談チーム

- ・幼児、児童、生徒に係わる教育相談及び指導に関すること
- ・学校教育に係わる相談及び指導に関すること

## ○支援教育チーム

- ・支援学級の設置及び指導に関すること
- ・障害児教育に関すること

## 【質疑・意見】

- ・ICT支援員の配置は何人か。  
→15人配置している。技術者は5人いて、支援員の支援をしている。
- ・ICT支援員は、どういう形で学校を回るのか。  
→学校勤務日が定められており、指定日は一日学校に常駐している。ホームページの更新や機器の不具合の対応等に従事し、学校のICT機器の環境整備、活用推進の支援を行っている。

- ・3点要望を出したい。初任者研修の「先輩の授業に学ぶ」の先輩は、現職にとらわれず、OBを活用するのも良い。また、豊中市の中だけで考えるのではなく、他市や他府県に範囲を広げることも考えてほしい。

福井市、京都市を視察して学ぶことはとても良いこと続けてほしい。ただ、国語で算数だと教科で指定するのは今の時代にそぐわない。全教科を通して言語活動に取り組んでいる学校へ訪問するのが良い。視察成果として、授業のビデオを撮って映像で先生方に見てもらう方が良い。

教育相談のカウンセラーの方々の質の向上を図ってほしい。この部門は日々進んでいっている。内部で研修を行うというのもよく分かるが、カウンセラーの方が学会等、外へ研修に行ける時間の確保をお願いしたい。

- ・なぜ、福井市と京都市に視察に行くのか。先進地というが、どう見定めたのか。  
「先輩の授業に学ぶ」では、どういった授業を考えているのか。

→福井市は学びだけでなく体力向上の面でも効果をあげていると聞いている。学校としての学びについて、総合的に見て検討した。比較的近いところで、教科に特化するのではなく学校全体としての取り組みについて他市に学ぶことを考えている。また、福井市はコアティーチャー事業にも力を入れており、どういった視点で取り組みを進めておられるのかも学びたいと考えている。

→「先輩の授業に学ぶ」については、ベテランの先生の優れた実践から学ぶという意味合いだけではなく、初任者により近い先生の体験をふまえた実践という視点からも学んでほしいと考えている。

- ・視察地について、何となく近いからバスで行けるからといったようなことで決められたのではないことが、説明いただいてわかった。「先輩の授業」では、その先輩から何を学ぶのか、いろいろな考えをもって企画し、少しでもステップアップできるようなものにしてほしい。
- ・校内研修会では、異質なところから刺激をもらい、学校の力を高めていただきたい。そういった面では、豊中は、他府県とのふれ合い・交流を増やしていくべきだと思う。
- ・支援教育コーディネーターの先生はどう位置づけられているのか。いろんなニーズを全て引き受け大変であり、疲労しているのではないか。校内の全教職員や校外の他機関と連携しながら解決してほしい。
- ・学校範疇を超えた問題が出てくる中で、教師も疲弊している状況。いろいろな人の知恵を借りながら問題解決にあたること。違う職種で連携して解決を図ってほしい。
- ・連携して力を出すのは良いこと。しかし、学校では最後まで責任を持たないといけない。どんなに連携しても最終対応は学校。そのへんのしんどさは残っている。こういった点を踏まえた上での連携でなければならない。相談体制はできていても、実際に向き合うのは教員である。そのことは、頭に入れておいてほしい。
- ・学校の対応について、法的なことを要求されるケースも出てきている。弁護士などを活用することで、気楽にできる部分もある。

### 3. 閉会の挨拶（副委員長）

- ・人事権移譲にともなって、研修体制や学校文化がちがう3市2町をどうまとめるか、たいへんなことである。一定の方向性、価値観が必要である。豊中市が中心となっていかなければならないと思う。
- ・学校も忙しく、法定研修以外の研修の参加者が少ないのは現実。研修にいけるような日を、全市的に考えるようなシステムも作ってほしい。教育センターが中心となって進めてほしい。